伊勢崎の都市づくりを辿る

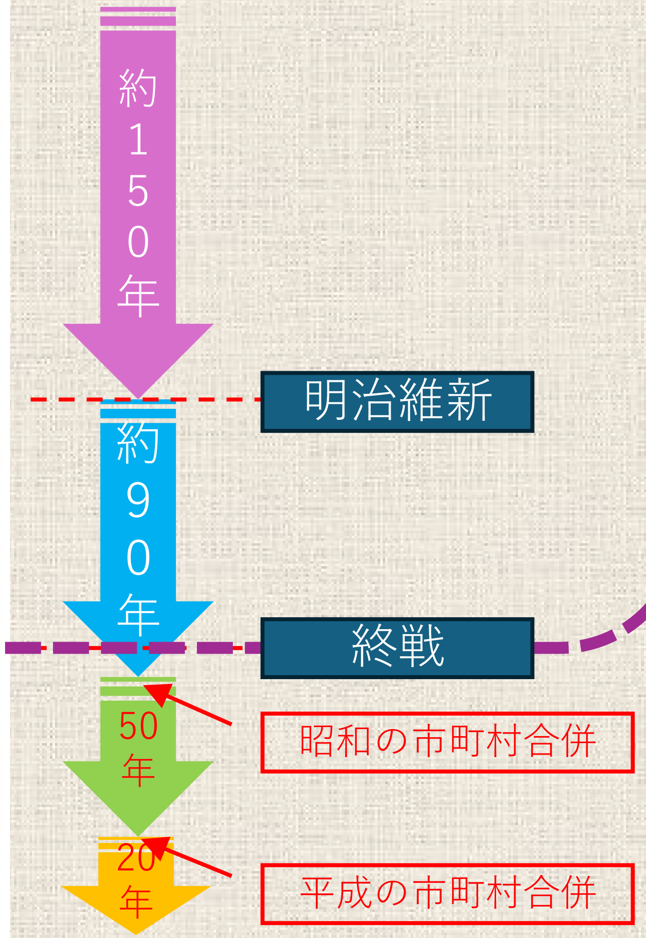
～伊勢崎藩の町割りから現在までの都市形成史～

第一夜

伊勢崎藩の町割りから戦災復興都市計画の挫折まで
（1700年代～1950年）

都市づくり略年表

時代	年	西暦	和暦	できごと
江戸時代	1600	1601	慶長6	伊勢崎藩1万石
江戸時代		1681	天和元	伊勢崎藩2万石
江戸時代	1700			町割り（城下町）の完成（江戸時代の中頃）
江戸時代		1771	明和8	明和の絵図
江戸時代	1800	1798	寛政10	寛政の絵図
明治時代	1870	1868		明治維新
明治時代	1880	1985	M18	迅速測図
明治時代	1890	1889	M22	両毛線開通
明治時代	1900			
大正時代	1910	1910	M43	東武伊勢崎線開通
大正時代	1920	1923	T12	伊勢崎耕地整理の開始(~S14)
昭和時代	1930	1940	S15	伊勢崎市制（伊勢崎・殖蓮・茂呂）
昭和時代	1940	1945	S20	伊勢崎空襲と終戦
昭和時代	1950	1955	S30	戦後の市町村合併
昭和時代	1960			
昭和時代	1970	1971	S46	線引き（市街化区域と市街化調整区域）
昭和時代	1980			都市開発の時代
平成時代	1990			都市開発の時代
平成時代	2000			都市開発の時代
平成時代	2010	2005	H17	平成の市町村合併
令和時代	2020			



（図1-1）寛政10年伊勢崎町古図
（伊勢崎市図書館所蔵）

伊勢崎藩の町割り

天和元(1681)年
伊勢崎領に那波領が加わり
伊勢崎藩は2万石となる。

宝永以前、・・・
西街今の金蔵院以南の両側共
白田なり。
（『伊勢崎風土記』）
※宝永・1704-1711年

絵図に見る町割りは
1700年中頃に形成された！

広瀬川と永久橋

寛文年間(1661-1671年)
永久橋付近に舟運が確立する

宝暦2(1752)年
大火の教訓より土橋へ

明和4(1767)年
木橋に改められ官費で修繕へ

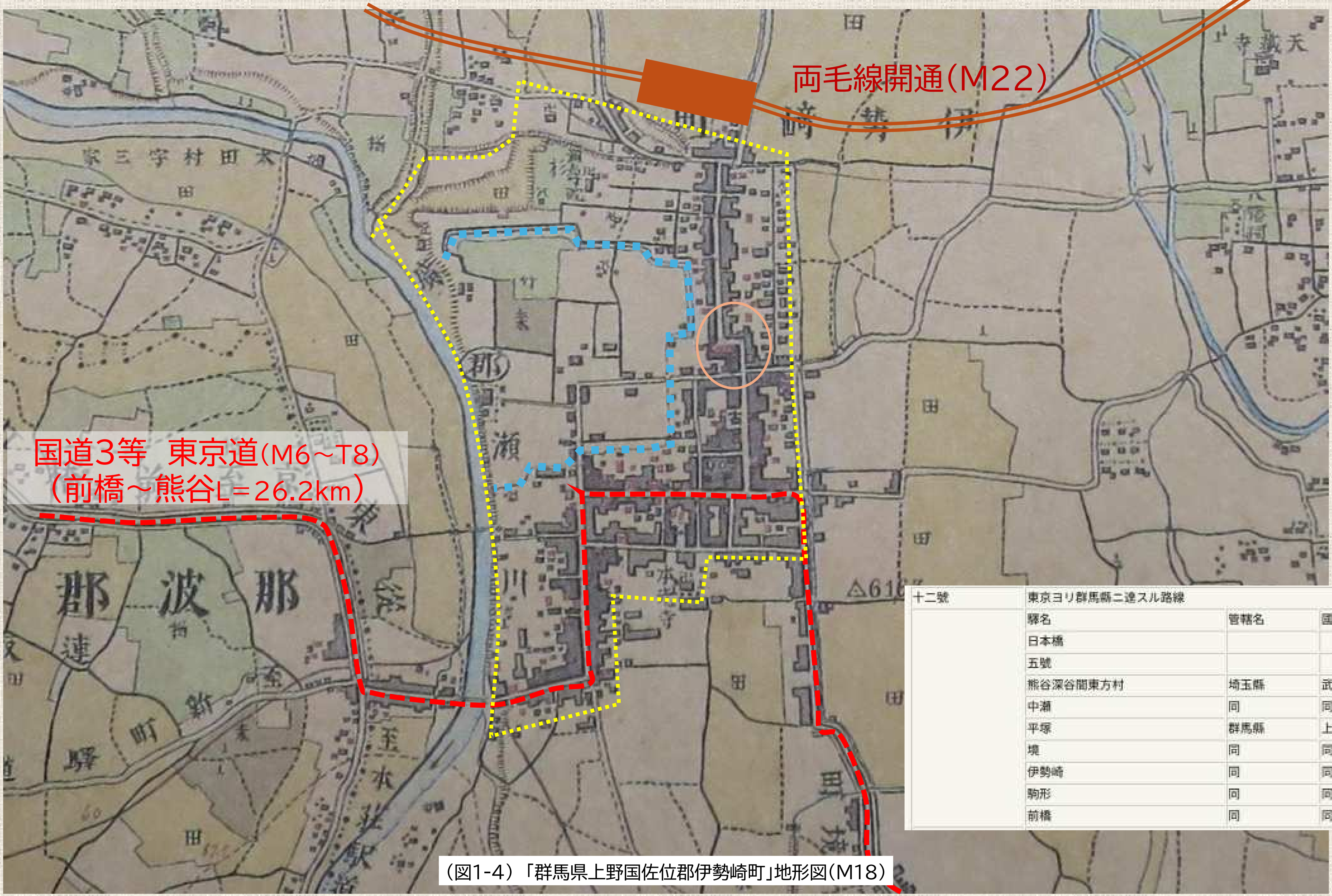
寛政10（1798）年『伊勢崎風土記』
（伊勢崎市HPより）

（図1-3）永久橋
（『三光町の歴史』より）

明和8(1771)年伊勢崎町絵図

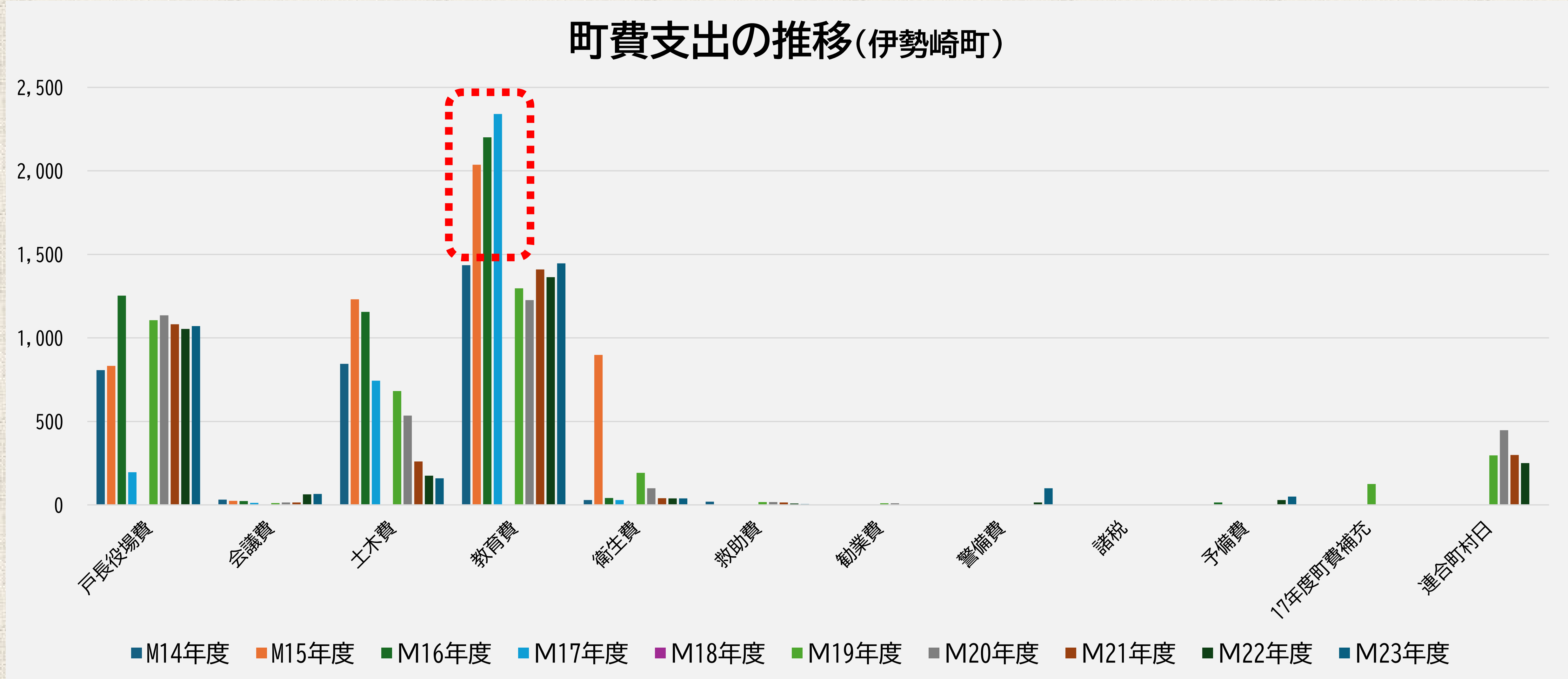
伊勢崎藩2万石
城下町の都市構造は
150年近くの期間
変わらなかった

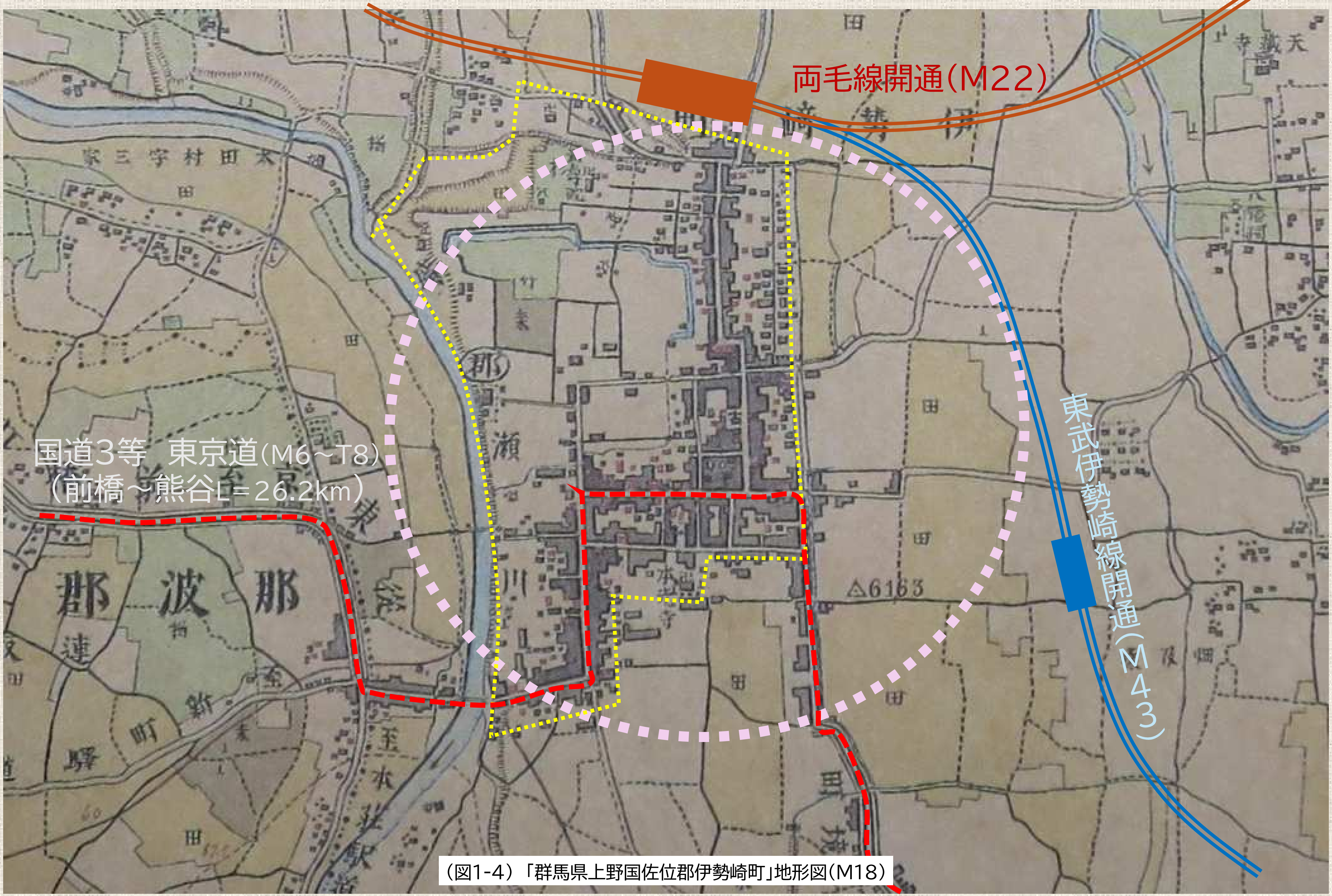
（図1-2） 伊勢崎城下の都市構造
（明和8(1771)年）
「都市寺院の宗教民族的考察」図1に加筆



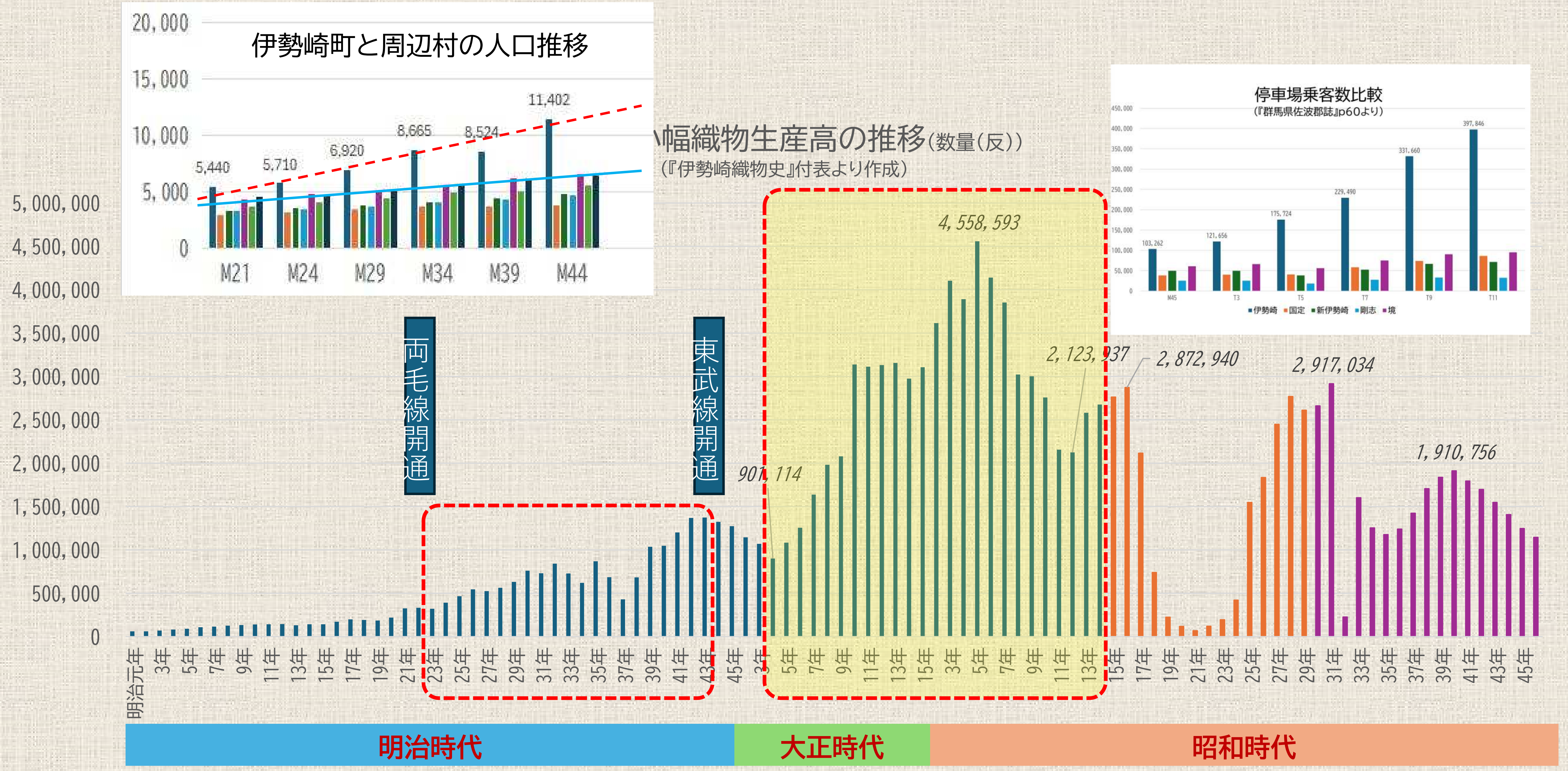
十二號	東京ヨリ群馬縣ニ達スル路線		
	驛名	管轄名	國名
	日本橋		
	五號		
	熊谷深谷間東方村	埼玉縣	武藏
	中瀬	同	同
	平塚	群馬縣	上野
	境	同	同
	伊勢崎	同	同
	駒形	同	同
	前橋	同	同

（図1-4）「群馬県上野国佐位郡伊勢崎町」地形図（M18）

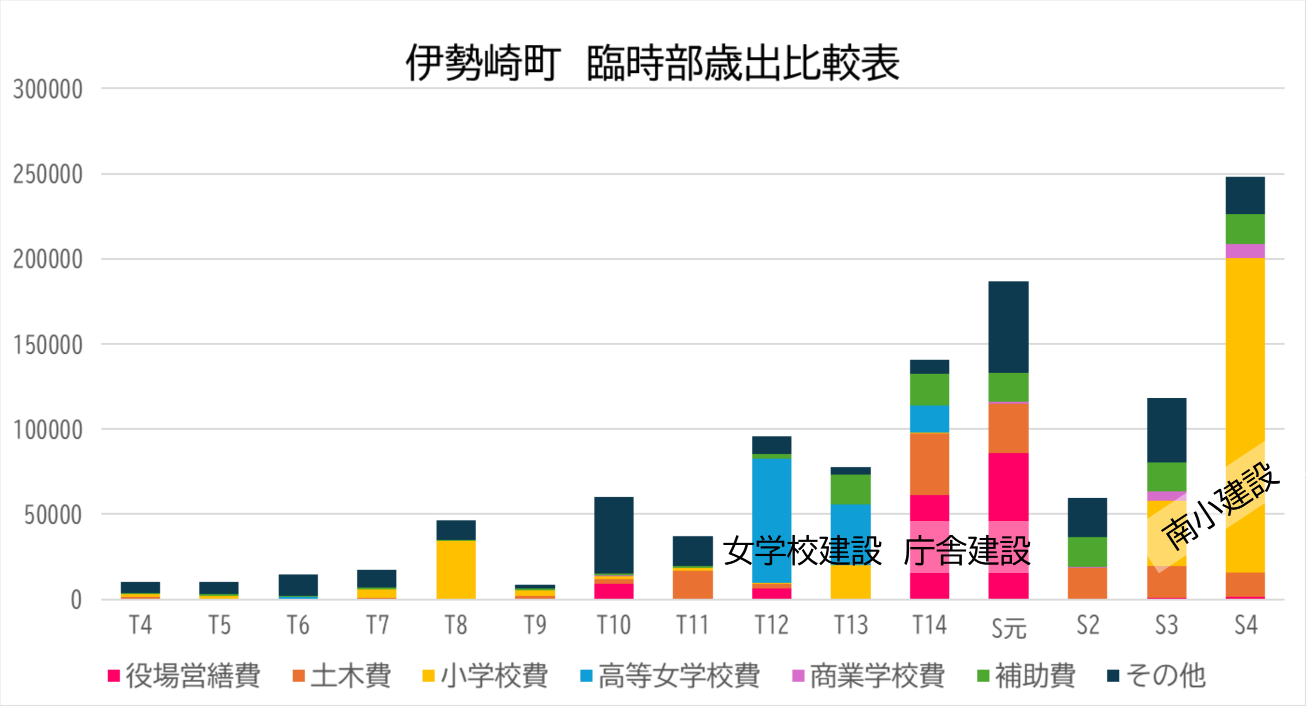

町費支出の推移(伊勢崎町)
2,500
2,000
1,500
1,000
500
0
戸長役場費
会議費
土木費
教育費
衛生費
救助費
勧業費
警備費
諸税
予備費
17年度町費補充
連合町村日
M14年度
M15年度
M16年度
M17年度
M18年度
M19年度
M20年度
M21年度
M22年度
M23年度



（図1-4）「群馬県上野国佐位郡伊勢崎町」地形図（M18）



幅織物生産高の推移(数量(反))
(『伊勢崎織物史』付表より作成)
4,558,593
901,114
2,123,937
2,872,940
2,917,034
1,910,756
両毛線開通
東武線開通
明治時代
大正時代
昭和時代
伊勢崎町と周辺村の人口推移
5,440
5,710
6,920
8,665
8,524
11,402
M21
M24
M29
M34
M39
M44
停車場乗客数比較
(『群馬県佐波郡誌』p60より)
103,262
121,656
175,724
229,490
331,660
397,846
M45
T3
T5
T7
T9
T11
伊勢崎
国定
新伊勢崎
剛志
境



石川泰三（いしかわ　たいぞう）

～嘉永6（1853）年－昭和18（1943）年～

18歳　郷学・責善堂肝煎
　　　赤石学校教員
　　　回天義塾開く
M14　佐位那波両郡学事委員
M16～T2　郡書記から県属、
　　　郡長（佐波、吾妻、勢多郡など）
T4～S7伊勢崎町長（61歳～79歳、18年間）
- 方面委員制度（T12）
- 町役場の新築移転（T15）
- 大伊勢崎計画（T15）
- 公認陸上競技ほか総合運動場の設置
- 耕地整理事業（T12-S14）
  六間道路（T13）
  幹線用水路整備ほか

S18　91歳で没す

（図1-9）伊勢崎耕地整理完成記念碑
（華蔵寺公園）

『伊勢崎耕地整理事業』
（T12-S14）

六間道路の完成（T13）
役場の新築移転（T15）

『大伊勢崎計画』
（T15、役場新築落成時発表）

（図1-11）「大伊勢崎計画図」伊勢崎中心部
（伊勢崎市図書館蔵）

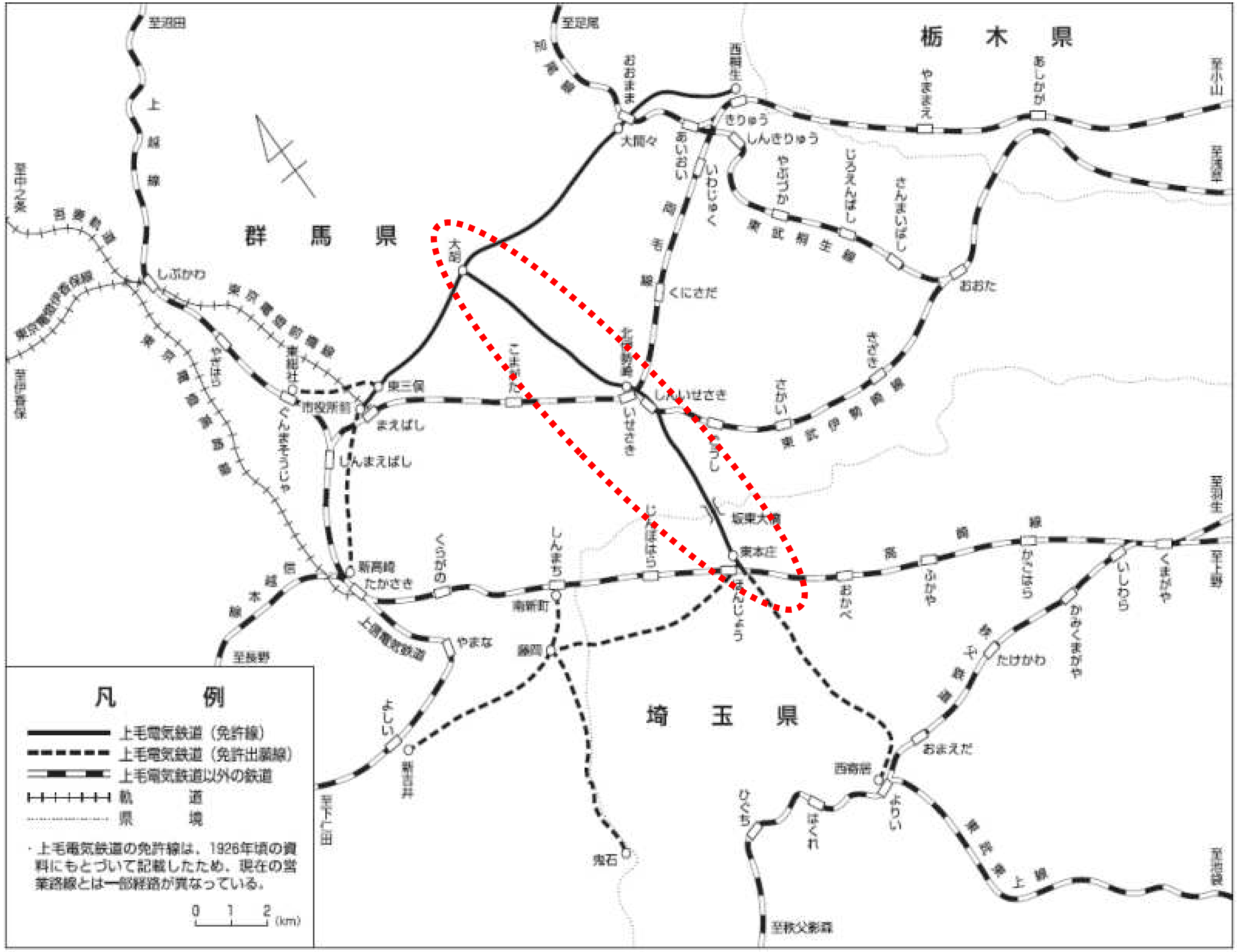


図２．上毛電気鉄道の計画路線の概要（1926年夏頃）
（「上毛電気鉄道株式会社線路平面図」（上毛電気鉄道提供）をもとに筆者作成）
原図でスケールが合わない部分があるため、本図においてもスケールの合わない部分がある。
上州鉄道（館林ー小泉町間）および本庄電気軌道（本庄ー児玉間）は原図に記載がないため省略した。

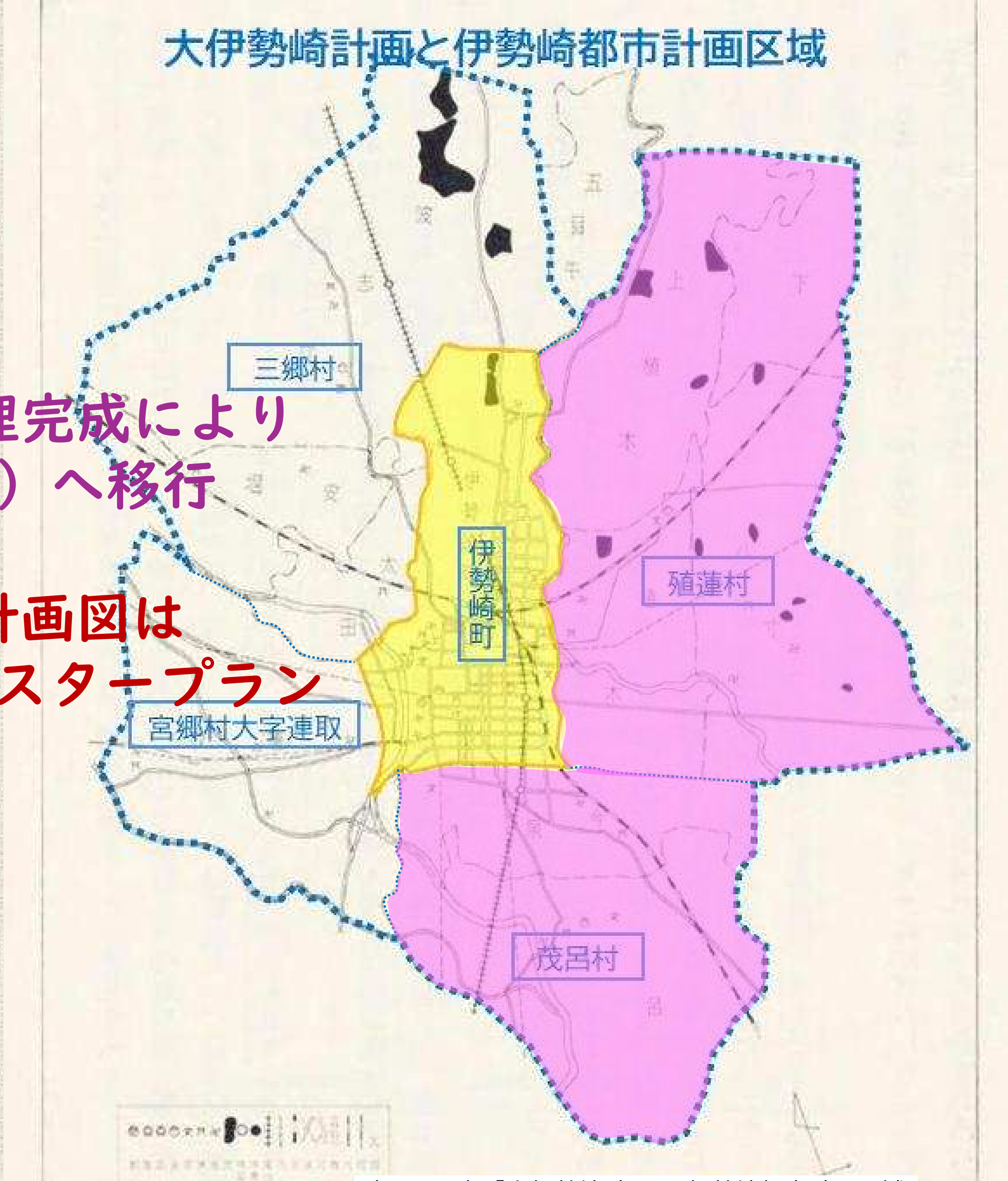
上毛電気鉄道の設立と
創業期の鉄道計画に関する研究

大島 登志彦・石関 正典

坂東大橋之碑
昭和六年六月

伊勢崎耕地整理完成により
市制（S15）へ移行
⇓
大伊勢崎計画図は
都市づくりのマスタープラン

（図1-11）「大伊勢崎計画図」
（伊勢崎市図書館蔵）



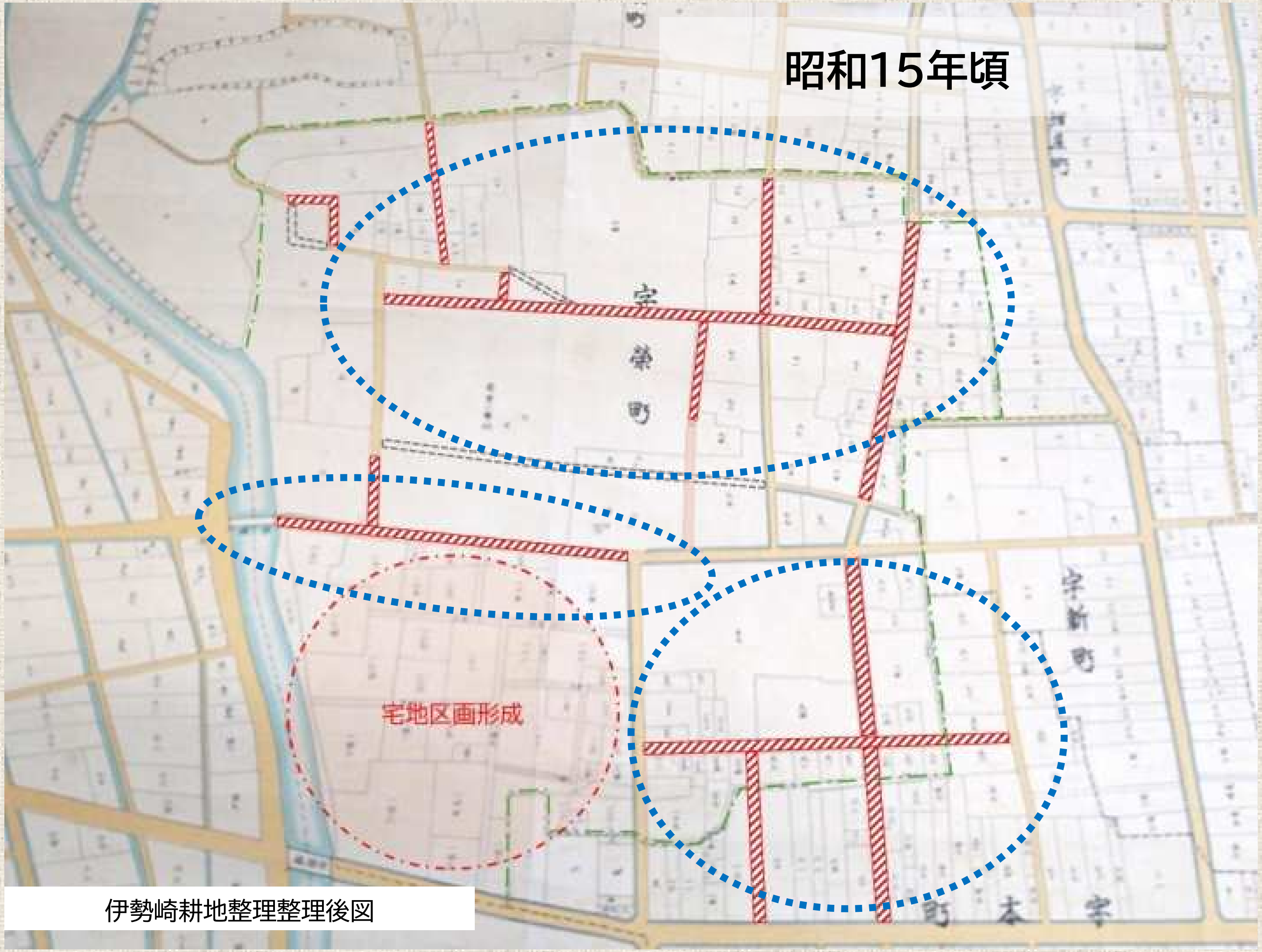
（図1-12）「大伊勢崎計画」と伊勢崎都市計画区域
（一部筆者加筆）

（図1-6）伊勢崎耕地整理都市づくり概念図

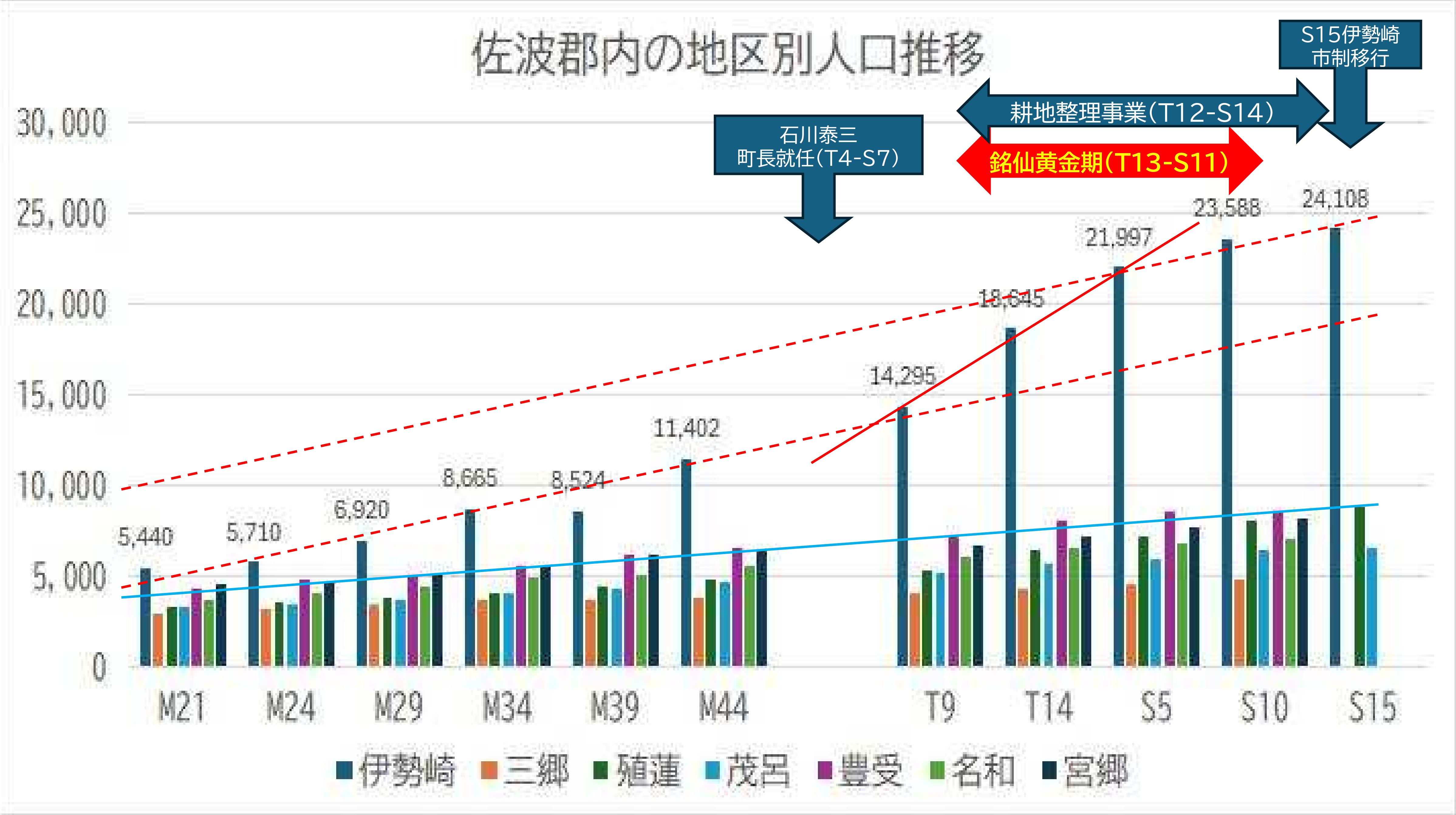
（図1-8）伊勢崎町役場（S16年絵はがき）

（図1-10）現在の六間道路

伊勢崎耕地整理従前図



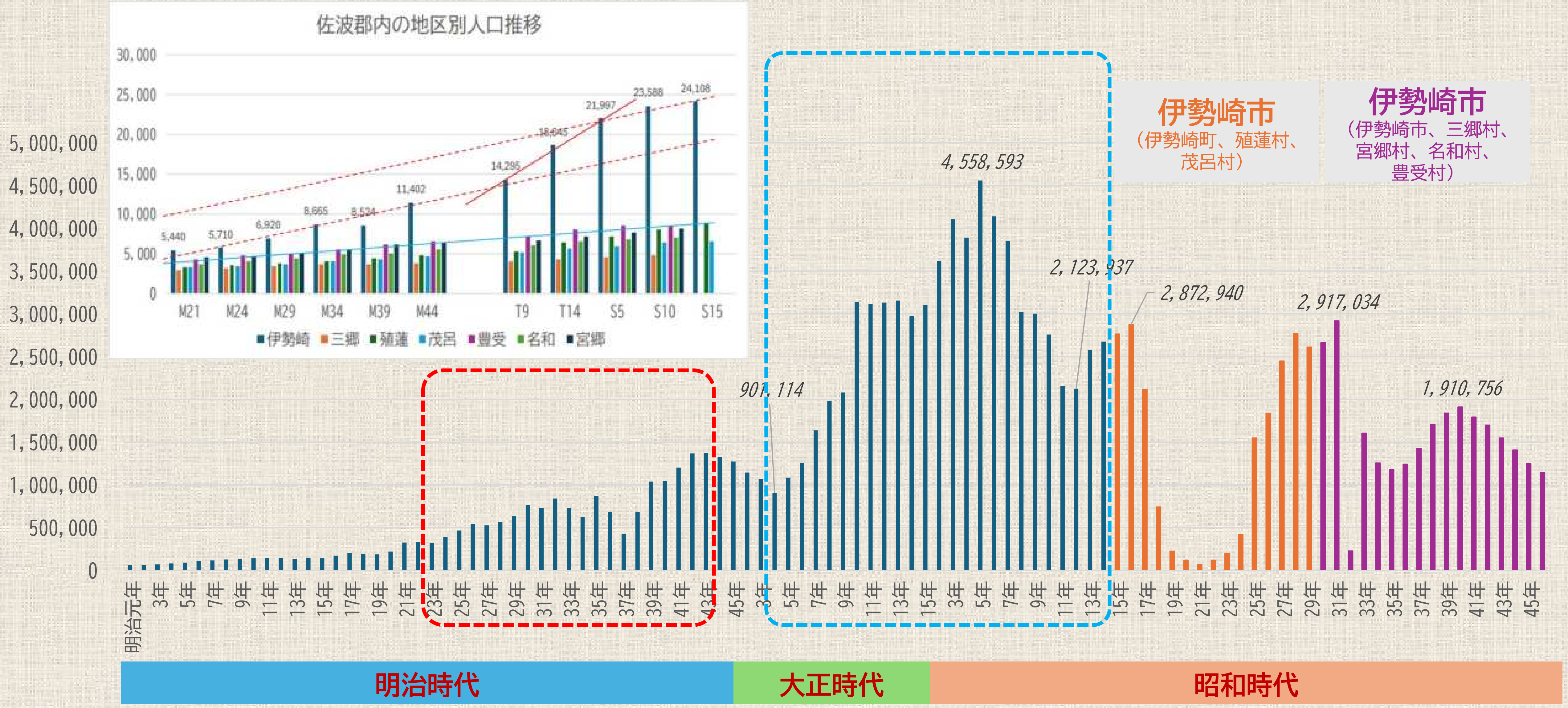
伊勢崎耕地整理整理後図

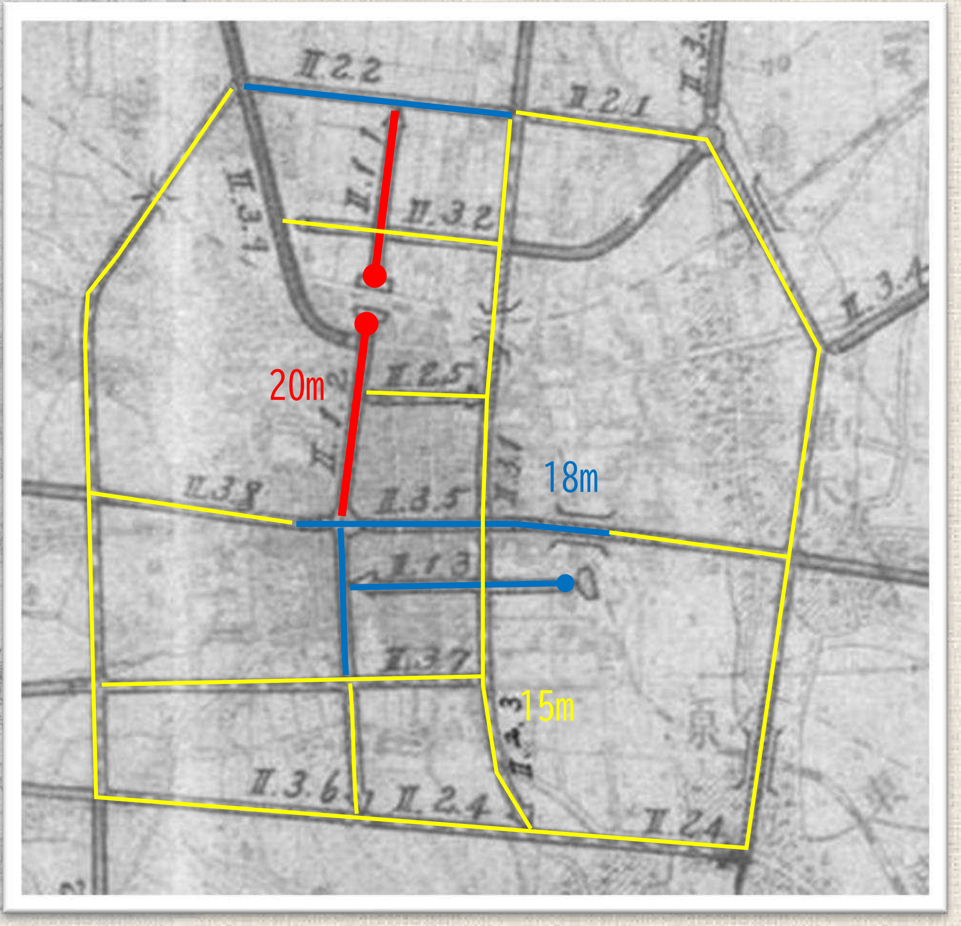


佐波郡内の地区別人口推移
S15伊勢崎
市制移行
耕地整理事業(T12-S14)
石川泰三
町長就任(T4-S7)
銘仙黄金期(T13-S11)
30,000
25,000
20,000
15,000
10,000
5,000
0
5,440
5,710
6,920
8,665
8,524
11,402
14,295
18,645
21,997
23,588
24,108
M21
M24
M29
M34
M39
M44
T9
T14
S5
S10
S15
伊勢崎
三郷
殖蓮
茂呂
豊受
名和
宮郷

伊勢崎小幅織物生産高の推移(数量(反))

(『伊勢崎織物史』付表より作成)





「街路網一般図」(S18年決定)国立文書館資料

（図1-15）「街路網一般図」（S18年決定）国立文書館資料

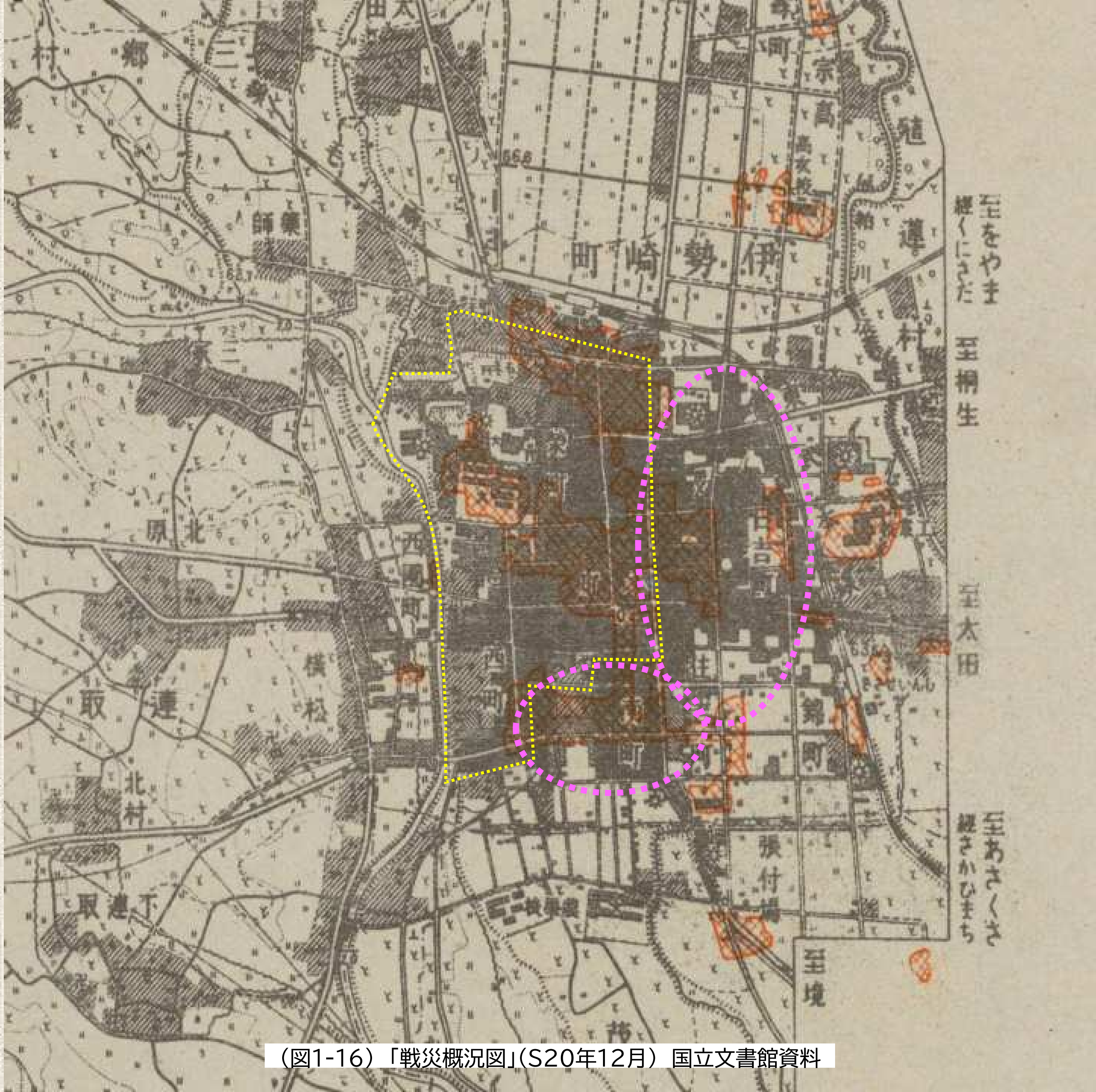
S15（1940）年　伊勢崎町・茂呂村・殖蓮村が合併し、
「伊勢崎市」となる

S18（1943）年　都市計画街路の決定
（同年、石川泰三　没）

S20（1945）年　伊勢崎空襲

S22（1947）年　カスリン台風被災

S23（1948）年？　戦災復興都市計画の中止

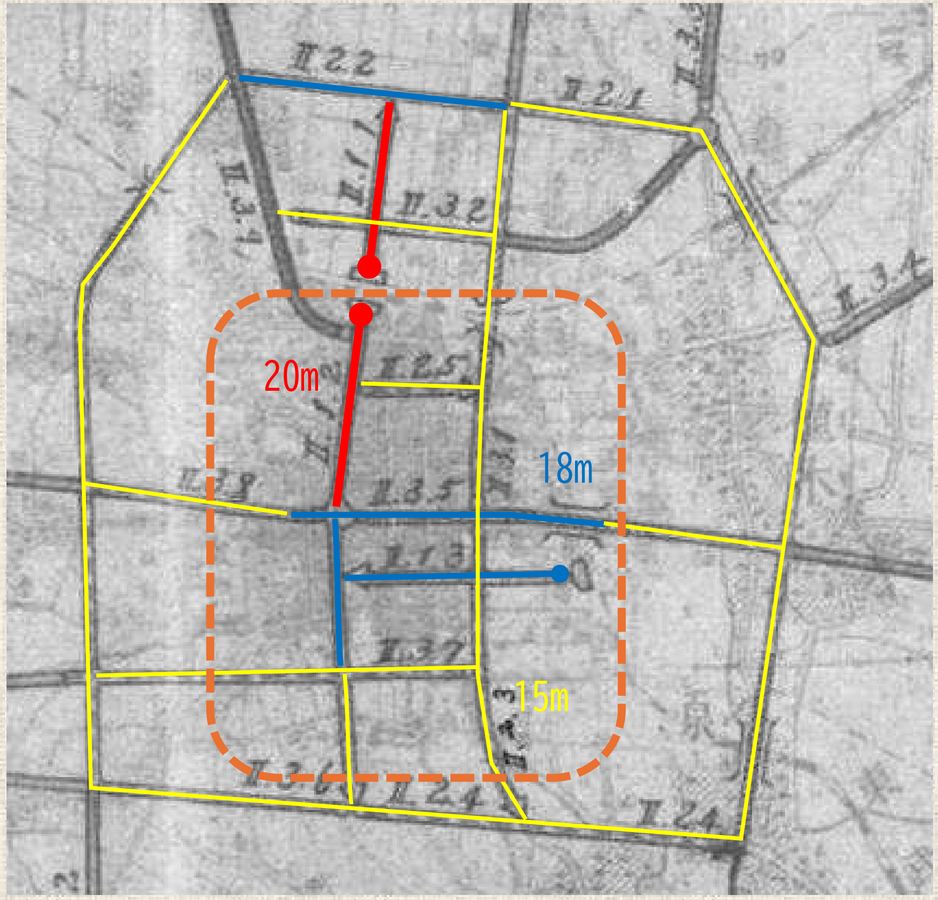


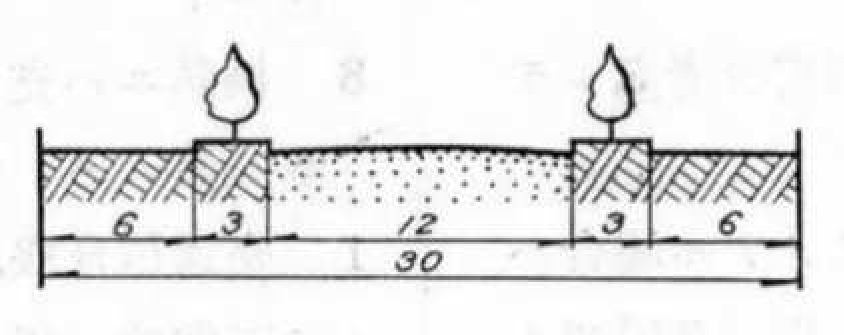
（図1-16）「戦災概況図」（S20年12月）国立文書館資料

伊勢崎空襲
S20.8.14～15

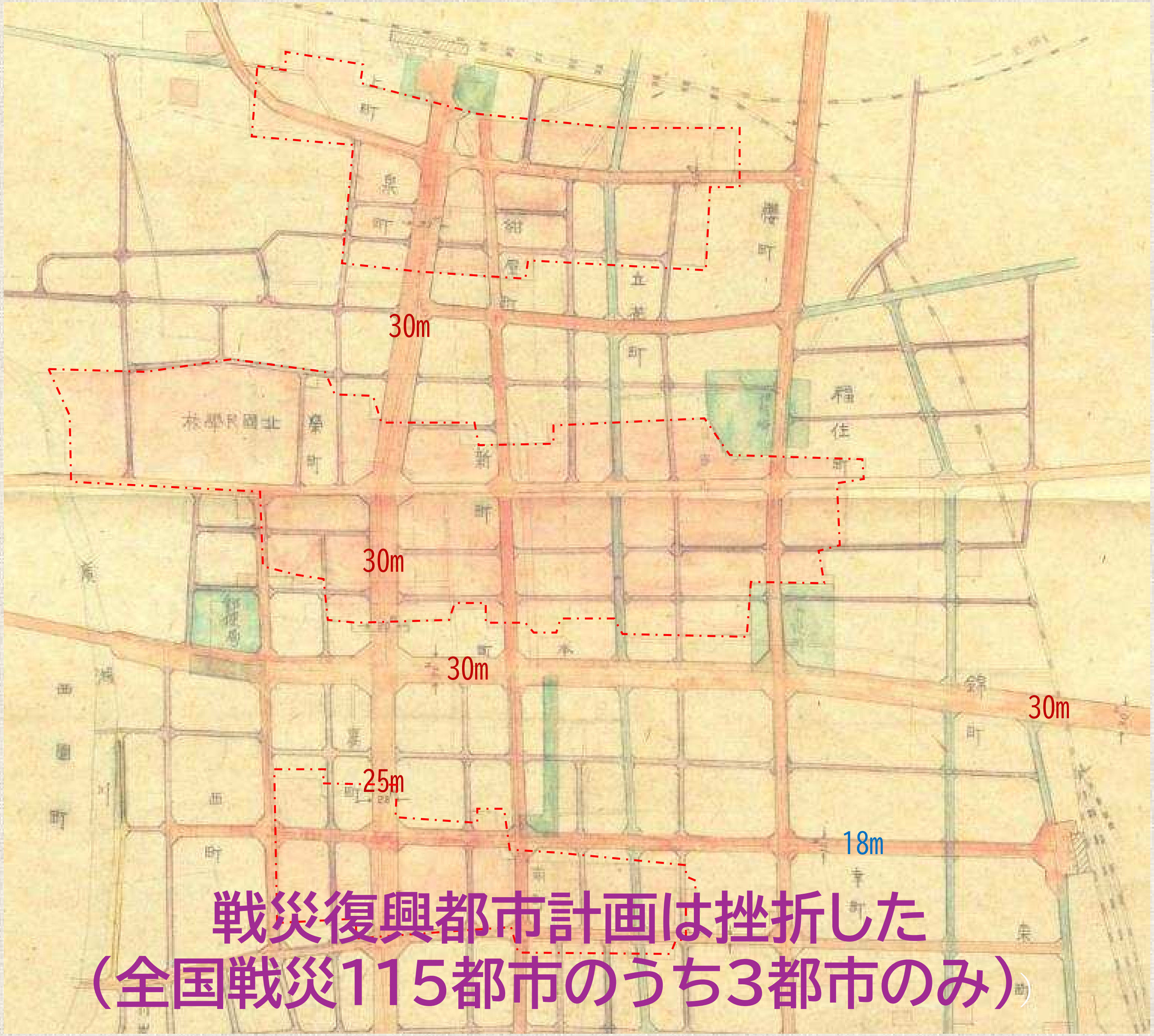
伊勢崎都市計画図
S20.9.24

（図1-17）「伊勢崎市都市計画図」（S20年9月）
（伊勢崎市図書館所蔵）





（図1-18）「戦災復興都市計画街路
標準断面図」より



戦災復興都市計画は挫折した（全国戦災115都市のうち3都市のみ）

74. 戦災復興院嘱託制度による戦災復興計画と計画状況に関する研究

──戦災復興計画研究　その1──

広島大学建築学科　助手　正会員　　石　丸　紀　興

都市名	嘱託及びその関係者	現地調査時期	成果報告の資料	その他資料・情報	計画図の有無・計画図名	土地利用計画図の凡例	計画の内容・特徴(主なもの)	人口予測等	法定計画の時期	当該都市の都市計画課へのアンケート調査回答注8	都市名
甲　府	高山英華氏	21年5月頃または夏	不明	高山氏の談	不明		①50m道路の役割を強調	不明	未指定のまま．昭和34年7月指定	①今回他の人に聞いて初めて知った②図面や内容については全然知らない③飯田さん（市先輩）が東京の自宅まで出向いてご指導を受けたそうです	甲府
前　橋	丹下健三氏 浅田　孝氏 大谷幸夫氏	21年5月頃	新都市22年1月号	浅田氏の談	有．「土地利用計画図」	公官庁地区、専用商業地域、普通商業地域、重工業地域、軽工業地域、運輸特別地区、共同住居地域、菜園住居地域、緑地	①産業配置の展望を考えての土地利用②政治的文化的中心としての役割の強化③広瀬川流域を緑地に④県庁の南を東西に通る道路と上越本線の交差する所に新駅の設置，他	昭和15年 85,587人 計画年度（昭和）126,000人	昭和26年3月14日建設省告示	①今回他の人に聞いて初めて知った．②図面や内容については全然知らない	前橋
伊勢崎	丹下健三氏 浅田　孝氏 大谷幸夫氏	21年5月頃	不明	浅田氏の談	不明		①産業復興の問題を考察し、機織の将来について考えたが、自信をもって都市経営のあり方に答えることができなかった.(計画は時間切れの感もあり)	不明	戦災復興都市の指定を返上	①そのことを誰かに聞いて知っていた．②図面や内容については全然知らない	伊勢崎
[illegible]	武　基雄氏	21年	[illegible]	[illegible]	[illegible]		①長崎駅の海側に橋を架けて結ぶ②	[illegible]	昭和28年	①今回他の人に聞いて初めて知ったく	

カスリン台風による被災と復旧

（図1-20）広瀬川の清流（S16年絵はがき）

（図1-21）水難供養碑（若葉町）

昭和22年9月15日被災
13日以降392.7mmの降水量により
粕川・広瀬川が氾濫
死者40人、重軽傷者875人
家屋流出・全壊311戸、床上浸水5,230戸
市街地では最大1.4m、平均70ｃｍの溢水

伊勢崎の都市づくりを辿る

～伊勢崎藩の町割りから現在までの都市形成史～

第一夜

伊勢崎藩の町割りから戦災復興都市計画の挫折まで
（1700年代～1950年）